



都議会議員(江東区選出)

あぜがみ・みわこ

あぜ上三和子

共謀罪の採決強行

日本共産党

許せません

「共謀罪」法は廃止に 新たなたたかいをおこそう

共産党・志位委員長が決意表明

15日、「共謀罪」法の強行成立直後の共産党議員団総会での志位和夫委員長の発言を紹介します。

追い詰められての暴挙

まず、私は、「中間報告」という異常な禁じ手を使つての、自民、公明による「共謀罪」法案の強行に、満身の怒りを込めて抗議を突き付けたいと思います。

この暴挙は、追い詰められての暴挙です。「共謀罪」法案は、審議をすればするほどたくさんの問題点、矛盾点が噴出して来る。「加計」疑惑は、官邸によって行政がゆがめられたことを裏付ける新しい事実が次々と明らかになる。国民の怒りが広がる。そういうもと、まさに追い詰められての暴挙です。たたかいはこれからです。

戦争法、秘密保護法、「共謀罪」法を廃止に

「共謀罪」法は、思想・良心の自由を保障した憲法19条に反する深刻な違憲立法です。「数の暴力」で強行されたからといって、そのままにしておくことはできません。今日、この日をスタートに、「共謀罪」法を廃止する新た

なたたかいを、全国でおこそうではありませんか。

さらに、違憲立法という点でいいますと、2015年9月に強行された安保法制＝戦争法、2013年12月に強行された秘密保護法、今回の「共謀罪」法、そのどれもが憲法を踏みにじった違憲立法です。そしてこの三つは、すべてが「海外で戦争する国」づくりの道具立てになっています。この三つをそろって廃止し、日本の政治に立憲主義、民主主義、平和主義を取り戻す—このたたかいに新たな決意で取り組もうではありませんか。

国会の力関係変えよう

私は、今日、衆院本会議に出席し、さらに参院本会議を傍聴して、あらためて実感したことは、自民、公明が多すぎることです。国会の力関係を変えなければなりません。選挙で変えなければなりません。

きたるべき総選挙で、野党と市民の共闘を必ず成功させ、日本共産党を躍進させて、自公とその補完勢力を少数に追い込もうではありませんか。直面する都議選で必ず勝利しようではありませんか。がんばりましょう。

野党と市民の共闘で自公を少数に



ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2017年6月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

「しんぶん赤旗」や「東京民報」を
ぜひお読みください